

福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト

新潟市北区観光協会・えちごエコネット協議会・自然環境活用部会

検討・実施事項

1. 標柱等を活用したウェブサイトへの誘導
2. 潟の食材の活用
3. 「菱風荘 福島潟たいけん合宿」との連携
4. 生き物アプリの活用検討 (iNaturalist)

<連携可能性検討中>

1. 企業との連携 (SDGsにいがた・志民委員会)
2. 学校との連携 (水原小学校・葛塚東小学校など)
3. 観光団体との連携 (インバウンドツアーなど)

1. 標柱等を活用したウェブサイトへの誘導

来園者に福島潟周遊を促すことを目的として、福島潟自然学習園に設置されている標柱に、えちごエコネットサイト「福島潟エリアの見どころ」にリンクするQRコードのシールを貼付。

【行動計画】
3. 広報
(2) 広報ツールの検討



ウェブサイトの内容 (福島潟)

もっど 福島潟を楽しもう!

気になる場所をクリック!

湖中央カメラ
雁晴れ舎
雁晴れ舎
湖来亭
Lagoon Brewery
ビュー福島潟
自然学習園の池

福島潟のどこに何がある?
<グーグルマップ>

福島潟から足さのぼして
<広域マップ>

施設案内や最新情報は…

水の駅 福島潟

Presented by
えちごエコネット

ビュー福島潟

屋上からは福島潟、越後平野が一望のもとに

<4階・映像展示室>
湖中央カメラを動かしながら鳥たちの姿をリモート観察!

開館時間などの詳しい情報は

水の駅 福島潟

広域エリアマップ

気になる場所をクリック

有機の田んぼ (準備中)

大阿賀橋 (準備中)

沢海地区 (準備中)

瓢湖

福島潟

雁晴れ舎

がんばれしゃ

屋上からは360°の絶景
特に夕陽は見逃せません

情報いろいろゲットしよう!

望遠鏡あり!

トイレ 駐車場 完備!

でも、進歩道を歩いて行くのがおすすめです☆

かたらいてい 潟来亭

潟のほとりのかやぶきの家
縁側に座ってのんびり過ごしませんか?

潟来亭

囲炉裏もあります

ランチやっています!

春から夏はカムリカイツリの親子を観察!

ヒナをおんぶ

ヒナをおんぶ

鷹なのに水面ダイブを魚をゲット!

ミサゴです

冬はハクチョウやおオヒシクイ、カモの仲間にあえます☆

ハクチョウの羽音も聞けますよ

ハクチョウもおオヒシクイもだいたい10月頃に渡来して2月頃まで観察できます

とにかくデカイ! オジロワシ

このサイトについて

冬になると白鳥や雁の仲間がたくさんやってくる越後平野、安波から朱鷺が飛んでくることもある、この豊かな自然環境を守り、魅力を高めていきたい!

そんな思いで、多くの人々が集まり、水鳥をシンボルとしたプロジェクト「えちごエコネット」がはじまっています。

このサイトは越後平野の魅力を伝えるため、えちごエコネット協議会(越後平野における生態系ネットワーク推進協議会)が作成しました。

エコネットについて

エコネットは環境づくり
生きものが住みやすい環境を揃やしてつなげていく取組
わにたちが、遊草、農産、仕事や動物の場所をそれぞれ必要とするように、生きものたちにとっては、安全なやぐらやエサ場などつなぐも欠かせません。さらに、その間を安全に移動できること(つながっていること=ネットワーク)も大切なポイントです

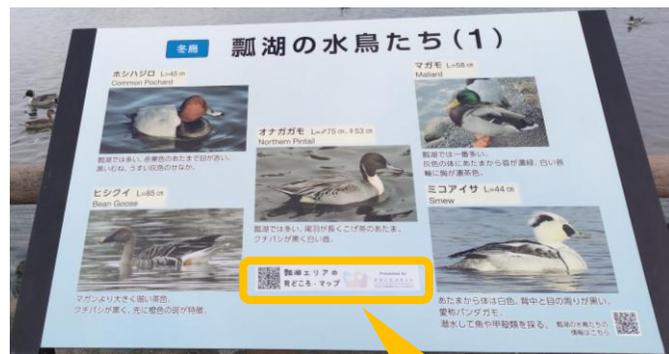
エコネットは地域づくり
「エコネット」でつなげるのは環境だけではなく
たとえば、農業を減らした、水鳥にもやさしい田んぼのお米を賣う、安全安心な食材として子どもたちの給食に使ってもらうというつながりや、川や湖の自然を学びの場や観光資源として活かす、健康づくりに役立てる、などもエコネットが目指しています

越後平野における生態系ネットワーク推進協議会
事務局：国土交通省北陸地方整備局 河川川辺課
企画・制作・写真：公益財団法人日本生態系協会

えちごエコネット

瓢湖のページへ

瓢湖でも新たに、周辺の看板や施設等に、えちごエコネットサイト「瓢湖エリアの見どころ」にリンクするQRコードのシールやパネル、ポップを設置。



案内看板用QRコードシール

ウェブサイトの内容（瓢湖）

もっと 瓢湖を楽しもう！
 気になる場所をクリック！

さくら池 (立入禁止) あやの池 (立入禁止)

冬期は立入禁止です

白鳥観察舎 東新池観察舎

白鳥会館 ハクチョウ採食地 (田んぼ)

瓢湖のどこに何がある？
 <Googleマイマップ>

瓢湖から足をのばして
 <広域マップ>

最新情報はインスタから
 <瓢湖白鳥観察舎販売組合>

Presented by
 えちごエコネット
 えちごの自然をひとつながりに

広域エリアマップ 気になる場所をクリック

福島潟

有機の田んぼ (準備中)

大阿賀橋 (準備中)

沢海地区 (準備中)

瓢湖

阿賀野川などでも
 同様な展開を検討中

白鳥観察舎

エアコン完備！

水鳥眺めて、のんびりタイム

#瓢湖しか勝たん

瓢湖ガチャで運試し！

ドリンク豊富！

瓢湖グッズをゲットしよう！

基本の鴨を一気見しよう！

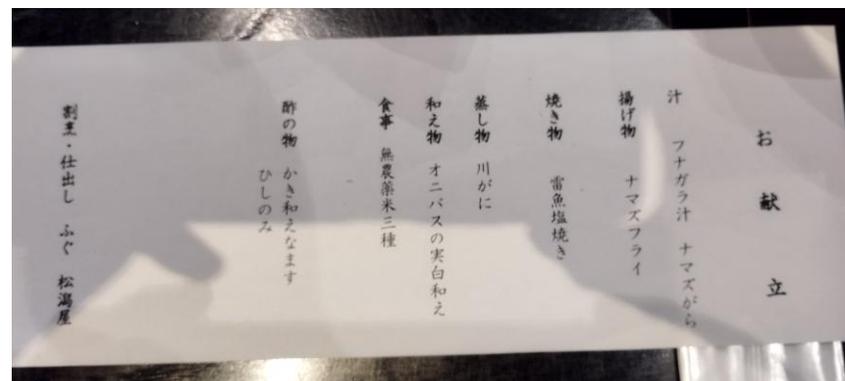
オナガガモ マガモ

ホシハジロ ヒドリガモ

キンクロハジロ ハクチョウ見るなら朝か夕方がおすすめ

2. 潟の食材の活用

- 「割烹料亭・松潟屋（新潟市北区）」では、潟来亭で、外国人観光客（ロシア、キルギス、リトアニアなど）へ潟料理の提供を行っている。



出典：佐藤忠明氏 Face Book (<https://www.facebook.com/share/1KvXs9L7Ph/>)

- ヒシの実を使った新たな商品の開発に向けて「C's kitchen（新潟市東区）」に試作を提案し、検討・相談中である。



C's kitchen

新潟の旬をいかした着色料・香料・保存料無添加のおやつなどの製造・販売の他、自然豊かな新潟の食材を使った食育活動を行っている。



ヒシの実

【行動計画】

4. 地域振興-観光

(1) 観光資源の検討

試作品

左) ヒシの実バターケーキ

右) ヒシの実パイ

<課題>

- ①下処理に手間がかかる
- ②量が取れない
(1キロを剥いたら約350gに)
- ③加熱しても硬いままのものがある
- ④味や香りに特徴がない
- ⑤収穫時期が短く収穫量も安定しない

・大量生産する商品には難しいが、
潟の恵みを試食してもらうような
機会にはよい食材

・味の特性から、お菓子よりも料
理やお茶での提供が効果的かもし
れない



喫茶 湯来亭

運営) ビュー福島潟
ねっとわーく福島潟



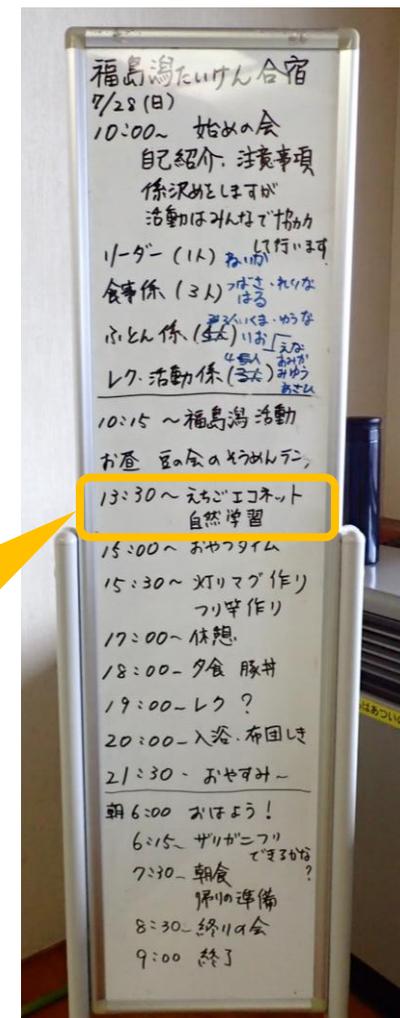
3. 「菱風荘 福島潟たいけん合宿」との連携

【行動計画】

3.環境学習

(6)学校外での自然環境学習の推進

- ・「菱風荘」では、小学校3年生～6年生を対象に、福島潟の自然を楽しむ体験合宿（こどもたいけん合宿）を毎年開催。
- ・2024年度夏の合宿（7月28日～29日）では、菱風荘との連携により、「えちごエコネット自然学習」をプログラムに追加。
- ・子ども達に生態系ネットワークについて伝え、「どうしたら多くの人に福島潟を訪れてもらえるか」について一緒に考えた。
- ・今後の継続方法については検討・調整が必要。



4. 生き物アプリの活用検討 (iNaturalist)

- ・一般向けに自然環境への関心の向上および情報提供を促す取組の一つとして、『iNaturalist』の活用について検討。



ウェブサイトやスマートフォンのアプリ (seek) から、生物の観察記録を投稿し、各分類群の専門の有志がそれぞれに同定を追加することにより、学術データベース、科学研究プロジェクト、博物館やその他の組織にとって有益なオープンデータを提供することを目的としたシステム。

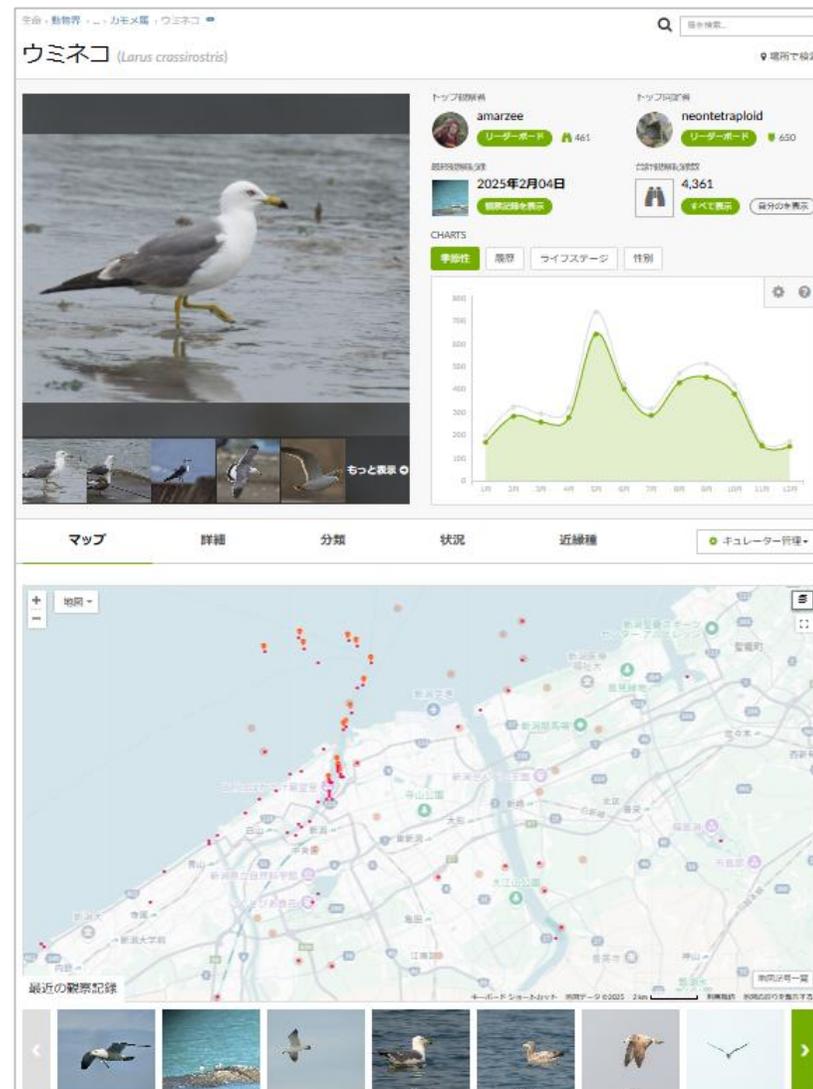
【活用事例】

『気候変動探偵局 生き物大移住計画を調査せよ！ 中部7県広域ミッション』中部地方環境事務所

- 調査結果について
自然環境保全基礎調査 身近な生きもの調査 第5回(1995-97)・6回(2000-01)調査(環境指標種調査)と、2021年次の調査結果は大きく変わらなかった。
- 参加者アンケートの声
「楽しかった」「今後も参加したい」「アプリの操作性は『容易』『普通』」などが挙げられている。

出典：環境省 中部地方環境事務所HP, https://chubu.env.go.jp/earth/ad_nature_00001.html

【行動計画】 3. 環境学習 (2)自然環境学習ツールの検討



“新潟県”“ウミネコ”での検索結果(2025.2.5現在)

<連携可能性検討中>

1. 企業との連携

(1) SDGsにいがた ウェルビーイング分科会

- ・SDGsにいがた：新潟県内の産・官・学・民によるSDGsの達成に向けた活動を支援・推進する地域創生プラットフォーム。会員数は約250者（企業・団体・自治体・教育機関・個人）
- ・分科会活動として、2024年度から新たに「ウェルビーイング分科会」を立ち上げ、先進企業の表彰などについて検討中。
- ・従来の「健康経営」の概念を拡張することが課題。

(2) 志民委員会 潟部会

- ・志民委員会：将来のまちの姿を思い描き、実現に向けて行動する委員会。企業が多数参画。
- ・潟部会：ラムサール条約の舞台である新潟市の「潟」のあり方について、表現・発信する部会。
- ・6/8（日）開催の「潟の学校」という親子向けイベントで協力予定。

【行動計画】

- 1.支援体制の構築
- (2)人材の育成および供給等による支援体制の検討

えがこう、感じよう、ぼくらの福島潟！

潟の学校

2025年6月8日(日) 9:30-12:30

会場：ビュー福島潟
参加費：無料

参加申込はこちらから

自然って、こんなに楽しい！
福島潟の豊かな自然に触れ、
観察・学び・創作を楽しめる体験型イベント！



<連携可能性検討中>

2. 学校との連携

(1) 瓢湖における水原小学校（阿賀野市）の 白鳥パトロール隊

- ・阿賀野市立水原小学校では、瓢湖に飛来するハクチョウの保護と世話活動を目的として昭和47年に「白鳥パトロール隊」を結成。
- ・小学校4年生から6年生までの希望者が集まり（今年度18名）、瓢湖でハクチョウの観察会、ガイド体験を行っている他、発表会で活動内容を報告。
- ・瓢湖の白鳥を守る会と連携しながら活動を実施。
- ・希望者が減少しており、隊員獲得に向けた戦略の検討が課題。

【行動計画】

3.環境学習

(3)学習イベント・プログラムの検討



※えちごエコネットにおいては、水原中学校との連携の可能性について検討中。

(2) 福島潟における葛塚東小学校（新潟市） の総合学習の取組

【行動計画】
3.環境学習
(3)学習イベント・プログラムの検討

・新潟市立葛塚東小学校では、地域に寄り添った総合学習を毎年展開している。葛塚地区の「自慢」である福島潟について、今年度は3年生と5年生が探求課題として取組を行っている。

3年生テーマ：福島潟のよさと、それを守ろうとする人々の願いや努力について調べよう

- (内容)
- ・福島潟についてのアンケート調査や、レンジャーさんからのヒアリングを行う
 - ・福島潟のよさについてまとめたものを発信する（新聞）

5年生テーマ：自然環境や農業の問題、地域に根差す食文化と向き合い、地域の活性化に取り組む
人々の思いの共有と社会参画

- (内容)
- ・米栽培を通して、葛塚の自然環境や農業問題について調べ、地域の食文化に関心を持つ
 - ・地域のシンボルである福島潟と食文化について、知っていることを話し合う
 - ・商品開発の企画書を作成し、漁師や飲食店の方に発表し、意見を聞く



- ・単年度予算内で取組んでいる総合学習を毎年継続的に実施できるような仕組みの検討や、福島潟での学びに様々な主体からのサポートが活用できるような体制の検討が課題。
- ・えちごエコネットとの連携を検討する上では、探求課題のテーマと生態系ネットワークの関連づけの方向性や、学校外への取組発信の手法等についての検討が必要。

<連携可能性検討中>

3. 観光団体との連携

(1) 新潟観光コンベンション協会 インバウンドツアー

- ・新潟観光コンベンション協会では、インバウンド消費の拡大・質向上を目的として、「新潟での新たな「潟」の活用事業～Niigata New style Lagoon Eco Tour～」としてツアー商品を造成。愛宕商事が販売を開始。
- ・ツアーによる鳥類への影響軽減に向けたルール整備や自然の価値やつながりの解説などが課題。



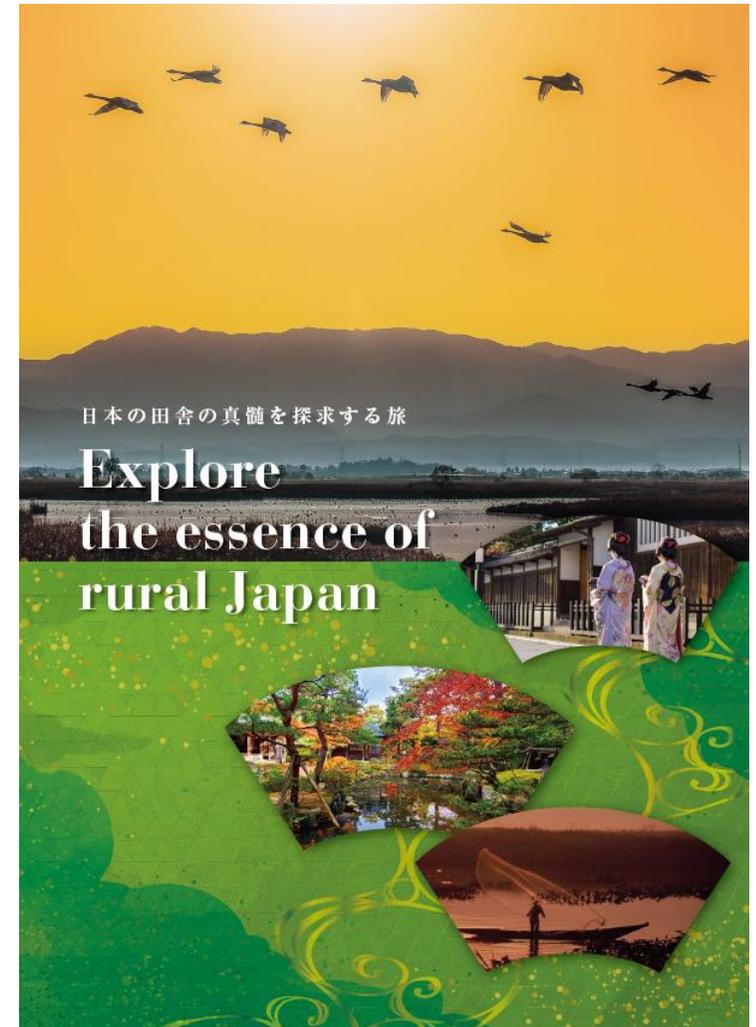
(2) 瓢湖白鳥観察舎販売組合

- ・水鳥をモチーフとした商品開発などで連携を検討。

【行動計画】

4. 地域振興-観光

(2) モデルツアーの実施



新潟での新たな「潟」の活用事業
～Niigata New style Lagoon Eco Tour～パンフレット